

神奈川大学生涯学習・エクステンション講座
神奈川大学ヤオ族文化研究所主催講座

アジアに生きる少数民族の 文化を知る

1. ヤオ族概説

吉野 晃(東京学芸大学)

2015年1月24日(土) KUポートスクエア

ヤオ族とはどのような人々か

- ヤオYaoは他称
- 「ヤオ」と呼ばれている人々
- 中国: 瑤族
- ベトナム: Dao(ザオ)(Zao)
- ラオス: Yao
- タイ: Yao, Mien

中国の瑤族

- 中国：広西壮族自治区を中心に、広東省北部、湖南省南部、貴州省東部、雲南省東部・南部に居住し、人口213万7033人(1990)。
- 広西・広東・湖南・雲南の各省・自治区に自治県をもつ。
- 「瑤族」に分類されている多様な文化的集団の族称⇐漢族から
- 盤瑤 紅瑤 藍靛瑤 山子瑤 花籃瑤 茶山瑤 長毛瑤 八排瑤 深山瑤 平地瑤 白褲瑤などの族称。それらを合計すると300以上の族称があった。

ベトナムのザオ族

- ベトナム：北部のハーザン、トゥイエンクワン、ラオカイ、イエンバイ、カオバン、ランソン、バクタイ、ライチャウ、ソンラー、ヴィンフー、ハーバック、タインホア、クアン、ニン、ハオビン、ハータイの各省に計47万4000人(1989)。
- 多数の集団が「ザオ族」範疇に分類されている。
- 大板ザオZao Dai Ban、紅ザオZao Do、銭ザオZao Tien、藍靛ザオZao Lan Tien、青衣ザオZao Xanh-y、Zao Thanh Y、角ザオZao Coc Mun、クワン・チェット・ザオZao Quan Chet(ぴったりしたズボンのザオ)、クワン・チャン・ザオZao Quan Trang(白いズボンのザオ)、アオザイ・ザオZao Ao Zai(長衣ザオ)などと他称され、公式族称ともなっている。

ラオスのヤオ族

- 北部のルアンパバーン、ポンサーリー、サニャブリー、ボーケーオ、ルアンナムター、ウドムサイ等の各県に推定計約2万2600人(1995)。
- 二種類の「ヤオ」
 - ・ミエン(Higland Yaoとも呼ばれた。人口1万8100人[1995])
 - ・キム・ムン(あるいはムンMun):ミエンからはツァンツェイ(山子)、ヤオ族以外の民族からはランテン(藍靛)、ランティエン(Lantien)、ラオホエイ(Lao Huay)と呼ばれ、研究者からは低地ヤオ(Lowland Yao)とも呼ばれた。

タイのヤオ族

- チェンラーイ、パヤオ、ナーン、チエンマイ、スコータイ、カンペンペット、タークの各県に計4万8000人(1995)が居住する。
- タイのヤオ:すべてミエン語を話し自称ミエン(あるいはユー・ミエン)のミエン

- 主に、焼畑耕作を営み、陸稲、トウモロコシ、イモ類、豆類、雑穀などを栽培して、焼畑耕作に伴って移住してきた。広東・広西・湖南などでは林業にも携わってきた。その他、換金作物は地域によって異なるが、茶・綿・油桐・藍・ケシ・香料・棕櫚・などがあり、森林で採取された香料・キノコ・薬用植物なども現金収入の途であった。定着化したヤオ族は棚田で水稲耕作を営んできた。
- 武陵蛮・五溪蛮と称された古代湖南の山地住民の子孫とする説が有力であるが、漢族などから「瑤」と他称されてきた集団には、多様な文化的背景を持つ諸集団が含まれている。南嶺山脈沿いに南下移動し、現在の分布を呈するに到ったと考えられ、畲(シェ)族と系統的に近いと見られている。

生態適応と文化的要素を基準とした分類

- ① 移動性が強く東南アジア大陸部まで分布している「過山ヤオ」(盤ヤオ、板ヤオ、藍靛ヤオなど)
- ② 定着的な「非過山ヤオ」(八排ヤオ、深山ヤオ、長毛ヤオ、花籃ヤオなど)

ミエン語を話す過山系ヤオには、ヤオの十二姓の祖先が渡海の途上で神に救難されたという飄遙過海神話(渡海神話)が伝わる。ヤオ族の姓は、漢字で書かれ、盤、趙、鄧、李、馮などがある。

「ヤオ族」の言語

「ヤオ族」の言語

モン＝ミエン(Hmong-Mien)語族(ミャオ＝ヤオ語族)

ミエン語派: Mien, Munなど

モン(Hmong)語派: Punuなど

タイ＝カダイ語族

カム＝タイ語派: Lakkiaなど

中国の「ヤオ族」は、異なる言語を話す集団の集合。共通の「ヤオ語」はない。言い換えると、多様なエスニックグループが「ヤオ族」の中に含まれる。

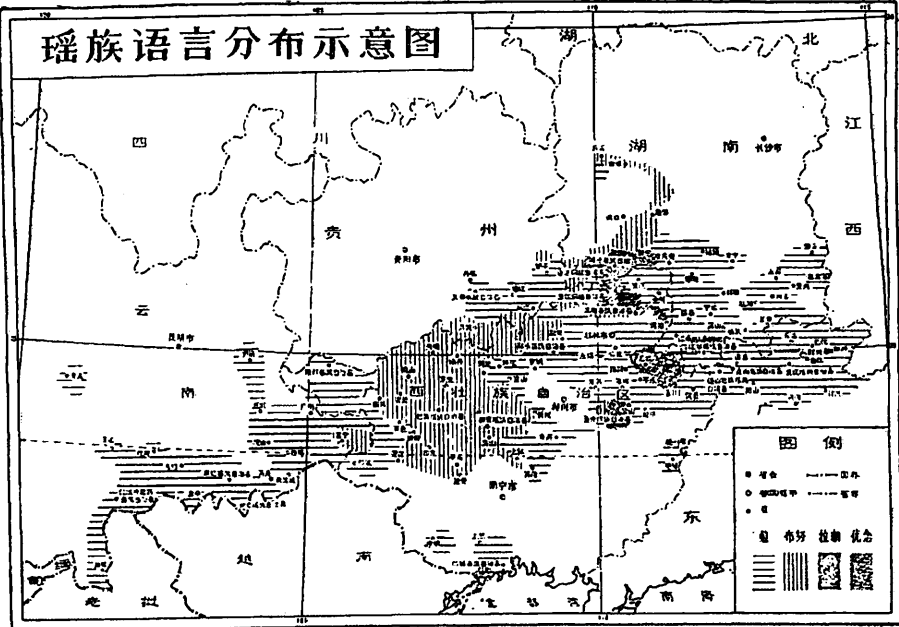
∴「ヤオ(瑶)」というのは他称であり、自称ではない。

中国ヤオ族(瑶族)の言語

モン・ミエン(Hmong-Mien)語族

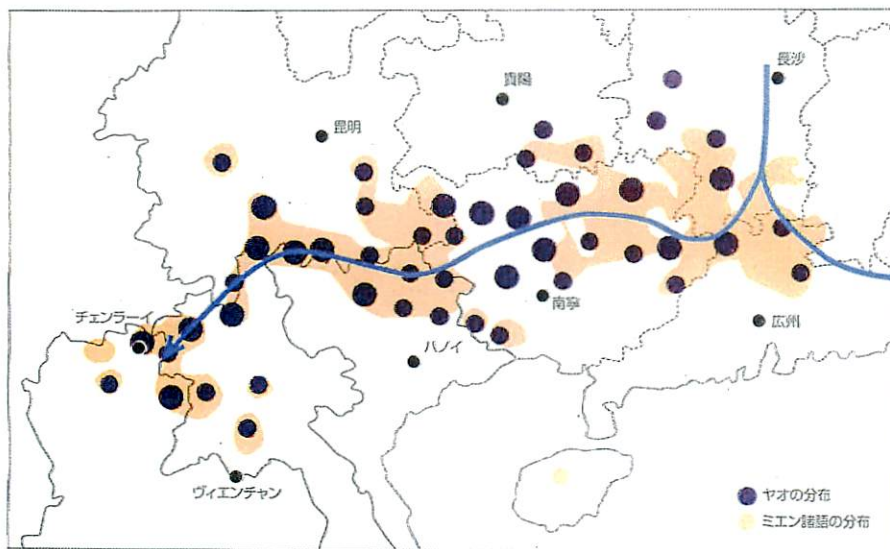
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td>32</td><td>33</td><td>34</td><td>35</td><td>36</td><td>37</td><td>38</td><td>39</td><td>40</td></tr> <tr><td>41</td><td>42</td><td>43</td><td>44</td><td>45</td><td>46</td><td>47</td><td>48</td><td>49</td><td>50</td></tr> <tr><td>51</td><td>52</td><td>53</td><td>54</td><td>55</td><td>56</td><td>57</td><td>58</td><td>59</td><td>60</td></tr> <tr><td>61</td><td>62</td><td>63</td><td>64</td><td>65</td><td>66</td><td>67</td><td>68</td><td>69</td><td>70</td></tr> <tr><td>71</td><td>72</td><td>73</td><td>74</td><td>75</td><td>76</td><td>77</td><td>78</td><td>79</td><td>80</td></tr> <tr><td>81</td><td>82</td><td>83</td><td>84</td><td>85</td><td>86</td><td>87</td><td>88</td><td>89</td><td>90</td></tr> <tr><td>91</td><td>92</td><td>93</td><td>94</td><td>95</td><td>96</td><td>97</td><td>98</td><td>99</td><td>100</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td>32</td><td>33</td><td>34</td><td>35</td><td>36</td><td>37</td><td>38</td><td>39</td><td>40</td></tr> <tr><td>41</td><td>42</td><td>43</td><td>44</td><td>45</td><td>46</td><td>47</td><td>48</td><td>49</td><td>50</td></tr> <tr><td>51</td><td>52</td><td>53</td><td>54</td><td>55</td><td>56</td><td>57</td><td>58</td><td>59</td><td>60</td></tr> <tr><td>61</td><td>62</td><td>63</td><td>64</td><td>65</td><td>66</td><td>67</td><td>68</td><td>69</td><td>70</td></tr> <tr><td>71</td><td>72</td><td>73</td><td>74</td><td>75</td><td>76</td><td>77</td><td>78</td><td>79</td><td>80</td></tr> <tr><td>81</td><td>82</td><td>83</td><td>84</td><td>85</td><td>86</td><td>87</td><td>88</td><td>89</td><td>90</td></tr> <tr><td>91</td><td>92</td><td>93</td><td>94</td><td>95</td><td>96</td><td>97</td><td>98</td><td>99</td><td>100</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																																																																																																
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																																																																																																																																																																																																
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30																																																																																																																																																																																																
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40																																																																																																																																																																																																
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50																																																																																																																																																																																																
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60																																																																																																																																																																																																
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70																																																																																																																																																																																																
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80																																																																																																																																																																																																
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90																																																																																																																																																																																																
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100																																																																																																																																																																																																
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																																																																																																
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																																																																																																																																																																																																
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30																																																																																																																																																																																																
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40																																																																																																																																																																																																
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50																																																																																																																																																																																																
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60																																																																																																																																																																																																
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70																																																																																																																																																																																																
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80																																																																																																																																																																																																
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90																																																																																																																																																																																																
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100																																																																																																																																																																																																

ヤオ族各言語の分布



毛宗武・蒙朝吉・鄭宗澤(著)1982『瑶族語言簡志』
民族出版社、口絵。

ミエンの分布



→東へ移動した
集団がショオ族
になったと推定
される

ミエン族の世界のひろがり

タイ北部における ミエン村落の 分布

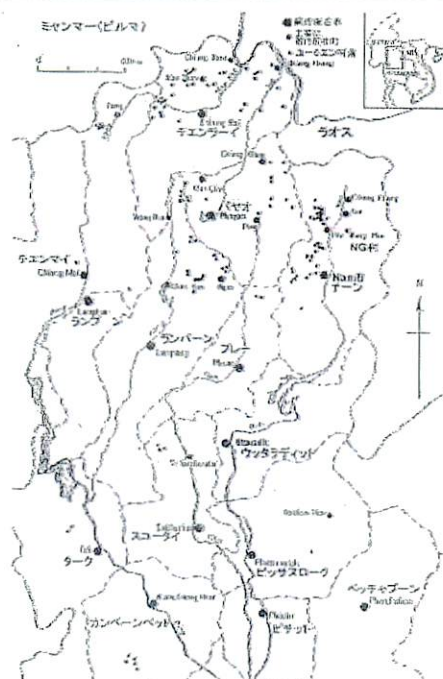
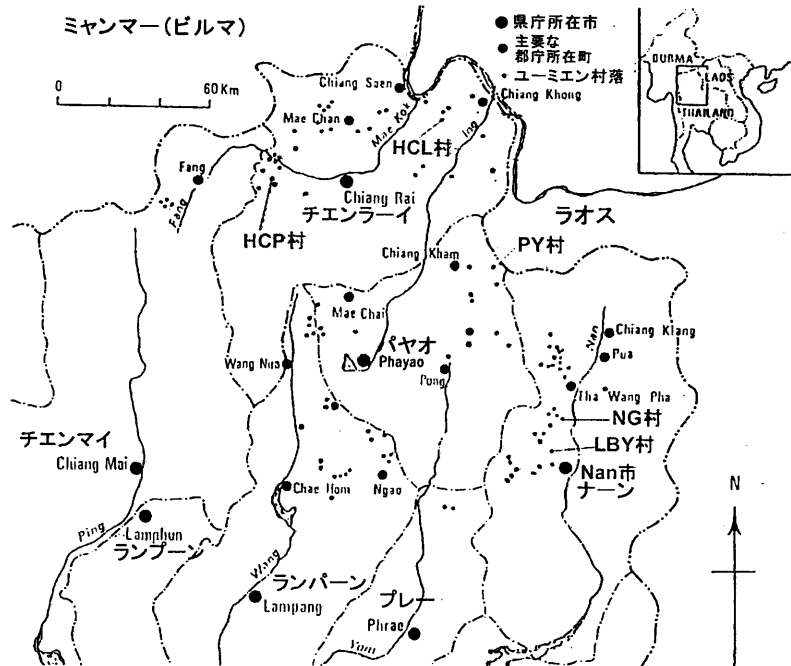


図2 タイ北部のミエン村落の分布

タイ北部 拡大図



これまでのまとめ

- 各国で「ヤオ(ザオ)」と称されている人々: 文化的には多様な集団を含んでおり、文化的・言語的にも共通性はない。従来山地に居住してきたことと、周辺の民族から「ヤオ(ザオ)」と呼ばれてきたことが共通する。
- 広いヤオの中で、最も広く分布し人口も多いのは、ミエン語を話し、ミエン(Mien)あるいはユーミエン(lu Mien)を自称する人々である。
- 今回はことわりなしにヤオと言うときは、このミエンの人々のことを指す。今回の講座で主に扱うのは、中国湖南省永州市藍山県のミエンとタイのミエンである。いずれもミエン語を話し、習俗などにおいても共通性がある。

ミエンの移住

- 上記のような、数カ国に亘る広い分布域が形成されたのはそれほど古くはない。
- ベトナムへ移住したのは16世紀頃、タイへ移住したのは19世紀後半と推定されている。

〈祖図〉

- 〈祖図〉(ツオウトウ): 代々祖先の墓の位置を記した文書(タイのミエン)
- 家族(ピャオ)の長がそれぞれ所有するものである。
- それぞれの所有者の父系直系祖先とその妻たちの墓がある地名が記録されている。この文書は祖先を祀る儀礼に用いる。その記録を見ると、所持者の祖先達の大ざっぱな移動経路が分かる。

タイ王国ナーン県在住のあるミエンの〈祖図〉(李姓)

- ①太■ 郎墳堂葬在雲南道開花府文山景羅竜里……
 C氏 娘墳堂葬在廣西道尚練冲……
- ②太■ 郎墳堂葬在廣西道沔・冲……
- ③李■ 郎葬在廣西道跡枝冲……
 同妻L氏 娘供・供地主
- ④李■ 郎葬在廣西道羅城縣……
 P氏 娘葬在廣西道四城府管下晏獺冲……
- ⑤李■ 郎葬在開花府管入云平里老東寨……
 T氏 娘葬在開花府雲平里九牛……
- ⑥李■ 郎葬在開花府管下果羅冲了口寨……
 P氏 娘葬在開花府管下仰山嶺頭坪……
- ⑦李■ 郎葬在猛隴府管入猛宣州管入猛標洞
 管入淦金平河冲……
 P氏 娘葬在猛隴府管入猛暹州管入猛標洞
 管入淦金岔河……
- ⑧李法■ 葬在猛隴府管入滄自冲嶺頭……
 T氏者……安葬猛竜府管入淦邪朽恐洞……
 嫩位T氏者葬在猛竜府管入猛誇洞管入滄吊
 標冲……
- ⑨李法■ ……安葬猛隴府管入猛哈洞……
 ⑩李法■ ……安葬在猛南府管入猛蜂洞管入淦
 割冲……
 同妻T氏者……安葬座猛隴管入城彪洞管入
 會庚・冲會毡二条岔河中……
- ⑪李法■ 安葬猛南府管入猛利洞淦・河頭……
 同妻T氏者安葬猛南府管入猛領洞淦・冲……

- 上に示したのは、タイのナーン県に住む李姓のミエンの所持する〈祖図〉である。
- 男性祖先とその妻の骨を埋葬した土地が記されている。番号は、筆者が仮に振ったもの。
- ①は記載初代を表すが、本当の意味で「初代」であるわけではない。世代が更新されて、下の世代の者が〈祖図〉を書き直す時に、前の〈祖図〉にある一番上の祖先の事項を削除することを原則としているからである。
- 番号を振ったのが男性祖先であり、その下に並べて書かれているのがその妻である。

- それを踏まえて見てゆくと、墳墓のある場所は以下のようなになる。
- ①は雲南。
- ①の妻から④の妻までは広西。
- ⑤から⑥の妻までは雲南。
- ⑦から⑩の妻まではラオスのルアンパバーン(「猛隴府」あるいは「猛竜府」)。
- ⑪とその妻がタイのナーン県(「猛南府」)に葬られている。

- 道(現在の省にあたる)や府(県)などの地名が同じでも、墓のある村の地名は異なっている。③と⑦夫婦の墓が同じ地名であり、⑪夫婦もまた同じ地名でないかと推測されるが、それを除くと、悉く異なる地名である。即ち、それだけ移住を頻繁に行ってきたということである。
- 妻が記載されていない者が二人いるので、それをのぞくと、9代のうちに、所持者の祖先たちが広西から雲南、ラオスを通してタイへ到っていることが分かる。

- タイにいるミエンの祖先たちが同じルートをたどってきたわけではない。
- これはあくまでもこの所持者の祖先がこのようなルートを通ってタイへ到ったというだけのことであり、他の人の祖先は別のルートをたどっている。
- 移動が家族単位で行われる⇒それぞれの判断の結果、細かいルートは多様なものとなる。
- 一生のうちに数回居住地を変えることは珍しいことではなかった⇒実際の移動は更に複雑なものである。
- しかし、中国からタイへ到る大まかな経路は把握できる。

- それらから読み取れる経路は、文書毎に異なっている。ある者の祖先たちは広東から広西を経てベトナムへ入り、そこからラオス、タイと移住してきた。また別の人の祖先達は広西から雲南へ入り、雲南からラオス、タイへと移住してきた。
- このように、ピャオごとに移住しているため、定まった移住経路はない。ラオスからタイへ入る主な経路にしても、複数あったことが確認されている。
- ミエンの移住は、戦乱などで多数の人口が一度に移動するものではなかった。基本的には彼等の従事してきた焼畑耕作に伴う移住の繰り返しで徐々に分布域が広がってきたと見る方が妥当である。

山中移動許可書「評皇券牒」(「過山榜」)

- 移住活動に関して、ミエンが所持する文書で特徴的なのが、「評皇券牒」あるいは「過山榜」である。
- 〈十二姓瑶人〉＝ミエンの起源を語る犬祖神話と、それに基づいて〈十二姓瑶人〉が焼畑耕作を営み山中を自由に移動できることを許可し、租税を免除される特権を持つことを述べた書である。
- ⇒Yao Passportとも言われる。
- 「祖図」のように各家族で所有する文書ではない。タイ国内でも数件しか確認されているのみ。

- 犬祖神話の部分のあらすじ
 - 昔、評皇という中国の皇帝が外国の高王と戦争状態にあった。高王を討とうと欲して群臣と会議したが埒があかなかった。
 - その時、評皇の許にいた龍犬の盤護が自ら申し出て高王を討ちに出た。海を七日七晩泳ぎ渡って、敵国に到り、首尾良く高王の首を噛み切って首級を持って帰った。
 - その褒美として評皇の娘と結婚した。
 - 盤護と妻は山中に住み、六男六女が生まれた。
 - それぞれに姓を賜り、六人の息子たちは外部から嫁を迎え、六人の娘たちは外部から婿を迎えて〈十二姓王瑶子孫〉の源となった。
 - 盤護が狩りに出て死亡すると、評皇は悲しんで、〈十二姓王瑶子孫〉に今後盤護を祀るよう勅令すると共に、山中で生業を営み租税を免除することを勅令した。
- (「瑶」はヤオのことを指す。実際の文書では「瑶」のほか「徭」「猺」といった字が書かれた)

- 文章は、この後、この券牒が発布された山名と地名が列挙されており、山の中で焼畑耕作を行う〈王瑤子孫〉に国税を免除する旨が述べられ、この免税特権と山中移動の特権、〈王瑤子孫〉の守るべき規律が列記されている。更に各姓の主要人物を官職に任じたことが書かれている。

- この文書は朝廷から発布された形式になっているが、実際にはミエン自身が写本して再生産したものである。
- 中国ではミエンの居住地で多数の〈過山榜〉が見つかっている。タイでは最近新たに書いたという話も聞かれた。
- タイのランパン県のみエンの許で上智大学調査団が入手した「評皇券牒」が現在、南山大学人類学博物館に所蔵されている。

- 文書では、ミエンが山中で耕作し移住することを許可し、税を免除する旨が述べられている。ミエンの人々は、こうした自らの特権的地位を他の人々に対して誇示し、山中における自らの焼畑耕作とそれに伴う移住を正当化しようとしたのであろう。
- 少なくとも、各地のミエンの許に伝わっているということは、彼らが重要な文書として移住の途上で保持してきたことを示している。

- タイでは、この文書の存在は知られていたが、重要な文書故に公にされることもなく、盤護神話も伝わっていなかった。しかし、近年、改めて「評皇券牒」を民族のシンボルとして表に示す動きがある。長い間忘れられてきた「評皇券牒」を新たに活用する動きが出ているのである。

ミエンの生業 焼畑耕作

- 焼畑耕作shifting cultivation:
- 森林などの植生を切り開く
- ⇨焼いて更地を作る
- ⇨そこで一定期間耕作
- ⇨放棄(休閑)
- ⇨遷移により森林再生
- ⇨切り開く.....を繰り返す農耕法。
- 耕地の場所を「切り替える」農耕であり、植生の遷移に依存している。

定着型焼畑耕作民

- 綿密なローテーションに基づいて休閑期間を管理する方法を採れば、一定人口の集落の周辺の土地でかなりの長期間に亘って焼畑耕作を継続することは可能である。
- タイ北部では、カレンKarenやラワLawaなどがこのような方式の焼畑耕作を行ってきており、「定着型焼畑耕作民established swiddener」として分類される。

開拓型焼畑耕作

- 一方、本稿で扱うミエンは、「開拓型焼畑耕作民 pioneer swiddener」に分類されていた。
- 開拓型の焼畑耕作では、定着型焼畑耕作民のように村落の周辺の土地を綿密にローテーションして切り替えるというようなパターンは取らない。
- これはミエンの村落に共同体的な性格が稀薄であることと関連する。
- 各家内集団の判断で適宜森林を伐り開いてゆく

1988年時点でのミエンの焼畑耕作のパターン

- 陸稲畑を毎年新たなところに開いて一年間陸稲を栽培
 - ↓
 - その跡地は二年目以降は玉蜀黍あるいは綿などを植える。一年から三年ほど栽培
 - ↓
 - その土地は耕作をやめ休閑する。
- 通常は十年以上休閑するのがよく、少なくとも五年以上は休閑していなくてはならない。ミエンの言うには、三十年以上休閑したところを伐り開いて耕地にするのが、作物の出来も良く、理想的であるという。

焼畑の作物

- 自給作物: 陸稲、トウモロコシ、イモ類、豆類など
- 換金作物: 地域によって異なるが、阿片ケシ・ミカン・レイシ・龍眼・綿・トウモロコシ・ショウガ・コーヒーなど。
- 森林で採取された香料・キノコ・薬用植物なども現金収入の途であった。
- 自給作物と換金作物の二本立ての経済＝近代化以前からミエンが採用してきた戦略であった。
- タイやラオスではかつては換金作物として阿片ケシを盛んに栽培していた。昔は阿片ケシの栽培は合法的だった。しかし、タイでは1958年に阿片の生産・取引が法律で禁止され、1970年代以降は取り締まりも強化されてきたので、トウモロコシや果樹などケシに替わる換金作物へと転換してきた。

移住と村落

- かつての移住の様子: 移住は家族単位で行われ、村ごと移住するようなことは、戦争状態などの非常時以外にはなかった
- タイの山地民族を紹介した文献に、「十年から十五年ごとに移住を繰り返す」と書いてあるが、実際に訊ねてみると、約五年毎に移住を繰り返してきた者もある一方で、同じ村に四十年以上住み続けた者もあった。
- 移住のペースは家長の判断にかなりの個人差があった。
- こうした焼畑耕作に伴う移住を繰り返して、中国からベトナム、ラオス、タイへと移動してきた。

焼畑に伴う 移住

タイ、ナーン県NG村形成
時の世帯主の移住歴

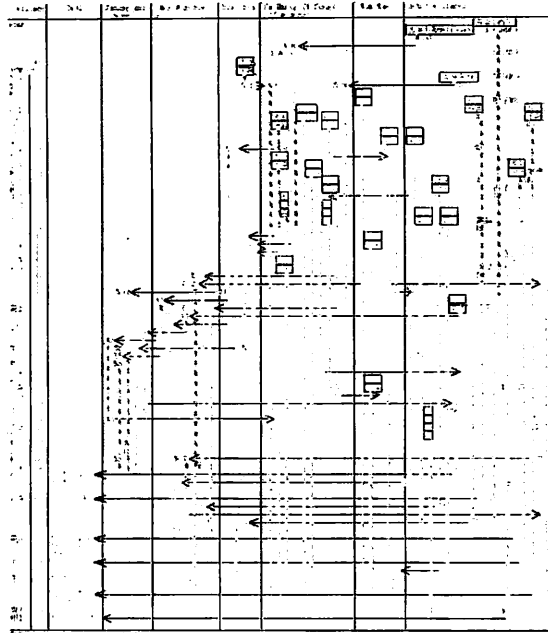
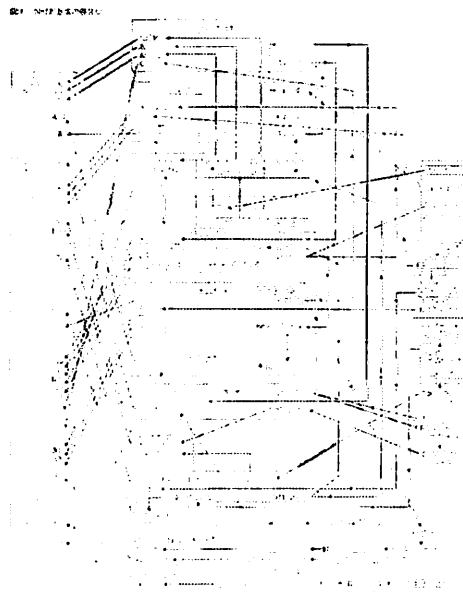


Figure 2 Migration to slash-and-burn stage

焼畑に伴う 移住



2000 0000 10000 20000 30000 40000 50000 60000 70000 80000 90000 100000 110000 120000 130000 140000 150000 160000 170000 180000 190000 200000 210000 220000 230000 240000 250000 260000 270000 280000 290000 300000 310000 320000 330000 340000 350000 360000 370000 380000 390000 400000 410000 420000 430000 440000 450000 460000 470000 480000 490000 500000 510000 520000 530000 540000 550000 560000 570000 580000 590000 600000 610000 620000 630000 640000 650000 660000 670000 680000 690000 700000 710000 720000 730000 740000 750000 760000 770000 780000 790000 800000 810000 820000 830000 840000 850000 860000 870000 880000 890000 900000 910000 920000 930000 940000 950000 960000 970000 980000 990000 1000000

移住と村落

- 焼畑耕作に従事していたときのタイのミエンの村落
= 移住途上の各家族の寄せ集め
- ミエンの「村落」= 移住を常とする人々が一時的に集住している場(であった。)
- タイの事例で言えば、そのような村落では、やって来る移住者を拒否する・移住を制限するといった規制を課すことが難しい。

焼畑耕作民の入村規制

- 焼畑耕作を行っていたタイの山地民族の入村規制
 - カレン: 移住に関して村落規制を行う
 - モン(Hmong): 当該の村に自分の父系親族あるいは姻族がいないと移住しにくい
- ミエン: 移住に関して入村規制がない。
⇒ある村の周りの土地が肥沃であるという情報を得た者が移住してくることを押し止める規範はない。

- もちろん現実には、全くつてのない処へ移住するというのは滅多になく、親族、姻族、知人友人といった紐帯を頼って移住先を選択する。
- しかし、村落自体が共同体規制を課す主体たり得なかったため、何らかのつてがあれば、その地へ移住することは、本人の意志があれば可能であった。

焼畑耕作と村落の再編成

- 移住が重なって一つの村の人口が急増加
↓
- 村からより離れた遠隔地に畑を開く
(村の近隣のすでに開いた場所は耕作中かあるいは休閑しているから)
↓
- 耕地の近くに出作り小屋を建て、そこに寝泊まりして耕作する
(片道二時間以上かかるような遠隔地は日帰りの耕作には向かない)
↓
- 出作り小屋群が徐々に常住の村落へ成長してゆく。
- 一方で、人口の増えた村落を見限って、他の村落へ移住してゆく者もいた。

- 移住の途上では、もちろん局地的な紛争や軋轢が移住をもたらしたこともある。
- タイでは1960年代後半から1970年代初めに掛けて、タイ国軍と共産主義ゲリラとの内戦があり、それを避けるための移住が頻繁に行われた。
- ミエンが行ってきた焼畑耕作に伴う移住生活が、いざ事があれば即座に移住できる構えを作っていた。



- 内戦などにもすぐに対応して移住可能。
- このように、焼畑耕作が移住の主動因であった。

家族と親族

- 親族組織は漢民族と同じく父系出自を理念としており、父系の理念は儀礼においてしばしば強調されている。
- 漢字の姓(盤・趙・鄧・馮・李・黄・劉・陳など)を有し、名前も漢字名を持つ。姓は原則として父系で継承される。

ピャオ(家、家族)

- 同じ家に住む家族(ピャオ)が最大の自律的集団
- ピャオは、かつては父系合同家族が理想的な家族構成とされてきた。
- ピャオのレベルを超えた親族集団はないが、二～四世代の祖先を共通にする父系親族(〈共翁太(チュアンオンタイ)〉)の間の協力関係は強い。タイのミエン社会では近年、核家族化の傾向にあり、両親が健在でも息子夫婦が居住を独立させる事例が増えてきた。

婚姻

- タイのミエン: 高祖父を共にする父系親族＝外婚単位
(内部で結婚してはならない範囲)
- 慣習法では一夫多妻婚も容認されている。
- 婚姻居住: 夫方居住を理想とし、夫方居住の婚姻の時には正式の婚礼が催される。
- 娶嫁服務bride serviceに伴う妻方－夫方居住もしばしば行われている。
- 婿養子の如く夫が妻方に婚入帰属する終身妻方居住(〈過房郎(キアプンラーン)〉)というもある。そのため、ピャオの系譜の実際の構成や姓の継承は純粋な父系とはならない。

養子

- タイのミエン社会では養取(養子縁組)がしばしば行われる。
- 他民族からも養取する。
- かつて阿片ケシを栽培して現金収入が多かった時代は、他民族から養子を多く取っていた。

他民族出身の養子

- 1960年代後半にタイでミエンの調査を行ったP. カンドレは、同世代人口の約一割が他民族出身の養子であると推算した。
- 近年では他民族からの養取の事例は少なくなっている
- しかし、少なくとも、ミエンに関していえば、「民族の血」などという言い方は成立しない。
- では、何が彼らの民族アイデンティティの基盤となっているのであろうか？
- その鍵は祖先祭祀を基軸とする儀礼体系
- 後に述べる〈掛燈〉といった成人儀礼をはじめ、様々な儀礼によって、祖先—子孫関係と、その中における親子関係が儀礼的にくりかえし認知される仕組みとなっているのである。

宗教:ヤオ道教

- 各家族(ピャオ)は男性家長の直系父系祖先夫婦の名を記した祖先簿〈家先単(チャーフィンターン)〉や〈祖図〉を所持して祖先祭祀を頻繁に行っている。
- ミエンは漢族との接触が長かったため、漢族文化の影響が強かった。古くから漢字を用い、姓名・〈家先単〉・〈祖図〉・経典・儀礼文書・契約書などは漢字で書いていた。

ヤオ道教

- ミエンの宗教:固有のアニミズムと道教の習合
- 道教研究者からは正一教系統と見られている。
- 人類学者J・ルモアンはミエンの儀礼体系を「ヤオ道教」Yao Taoismと称した。
- ミエンは、〈三清(ファームツイン)〉(元始天尊・靈宝天尊・道德天尊)を頂点とした道教諸神の画像(〈大堂画(トムトンファーン)〉)を所持し、大きな儀礼で祀る。この「三清」は、台湾の正一教系の道教儀礼でも祀られているものである。

儀礼の場

- ミエンの儀礼の主催単位は、個別の家族(ピャオ)であり、儀礼の場も基本的に個人宅である。複数のピャオが合同で儀礼を行うことは稀である。
- これまで、廟や神社のような固定的祭祀施設は作ってこなかった。⇨移住生活
- 定着化⇨近年、〈廟〉の建設がいくつかの村で見られる。

表1 タイにおけるユーミエンの儀礼

	A 〈大堂画〉tom tog faagを掛け、高位の神霊を招請する。	B 〈中空〈半天高樓〉に住む〈玉帝〉nut taiへ向けた祈願を行う(〈當天〉tog tinまたは〈叫天〉heu lung)。	C AとBのいずれもなし。
1 〈盤靈〉祭祀			〈歌堂〉
2 〈修道〉	〈掛燈〉〈度戒〉〈加職〉〈加太〉		
3 祖先祭祀	〈超度〉	〈當天安墳〉* 〈析解〉[〈掛燈〉〈超度〉〈做身〉の儀礼分節として行われることが多い] 〈安翁太牌〉	〈尚翁太〉〈尚家先〉〈尚外祖鬼〉〈尚外家鬼〉〈収兵〉*〈平安墳〉
4 人生儀礼	〈做身〉[葬儀]		〈添人口〉〈斥人口〉〈出花林〉〈做親家〉[婚禮]
5 収魂[生者の魂を呼び戻す]		〈當天架橋〉	〈架平橋〉[多種] 〈叫魂〉〈贖魂〉〈贖花〉〈撞魂〉*
6 穀靈祭祀		〈入春〉	〈招稻魂〉〈贖稻魂〉
7 土地靈祭祀			〈設地方鬼〉〈設地鬼〉〈給秋〉〈閉山〉
8 厄祓い			〈解煞〉
9 願掛け・返礼			〈許願〉[多種] 〈還願〉[多種] 〈賀年〉*
10 謝罪			〈釋師父〉〈釋天地〉〈釋契父〉
11 その他			〈設太陽月亮〉〈設元肖鬼〉〈奠星〉〈設百家姓〉

*〈発童〉というシャマン儀礼を伴う。

祭司

・祭司のランク

1. 〈做大師人(ツオウトムサイミエン)〉
2. 〈做師小人(ツオウサイトンミエン)〉
3. 〈設鬼人(シップミエンミエン)〉



- ・〈設鬼人〉は広義では祭司一般、狭義では〈做師人〉に達していない祭司(〈設鬼小〉sip mien toan)を指す。
- ・〈設鬼人〉は、簡単な祖先祭祀儀礼を行える祭司である。
- ・〈做師人〉の規準:成人儀礼を済ませていること、数えて二十歳以上であること、漢字を読み書きできること、一定程度以上の儀礼の唱え言を知っていること
- ・〈做師人〉:〈做大師人〉と〈做師小人〉の区別
- ・〈做大師人〉は表1のA・B列の儀礼を司祭できる者であり、〈做師小人〉はB列の儀礼(〈玉帝(ニュッタイ)〉Nyut taiという神に向けた祈願儀礼)は司祭できるが、A列の儀礼の司祭は手に余るといった知識量の者である。

漢字学習

- かつて学校教育が普及していなかった時代：学齡程度の男子のある親たちが金を出し合って漢人の教師を雇い、子供達に漢字を教えさせた。
- このような臨時私塾的な漢字教習システムは、中国にいたときから行ってきた。
- 漢字を学んだ男子達の中から、儀礼知識を習得して実際の祭司となる者が輩出していたのであった。

祭司の数

- 〈設鬼人〉程度の儀礼知識は、結構多くの男子が習得していた。
- 吉野が調査した二つの村では、1980年代末の時点で、四十歳台以上の男性の半数が、少なくとも〈設鬼人〉として儀礼を司祭できた。そのような者の中で更に儀礼的知識と技能を蓄積した者がより高いランクの祭司になってゆくシステムであった。

シャマン

- 表1のB列とC列にあるように、シャマン的な降神(〈発童(プットン)〉put toang)を伴う儀礼と〈発童〉を伴わない儀礼という区別もある。ミエンのシャマンは〈発童人(プットンミエン)〉put-toang mienという。

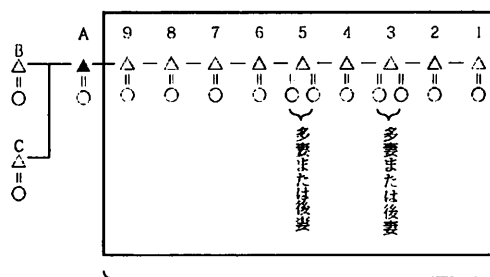
祖先祭祀

- 祖先祭祀儀礼: 頻度の高い儀礼
- ミエンの祖先は、家族の男性家長の父系直系祖先とその妻である。それらの祖先を〈家先(チャーフィン)〉という。「家の祖先」という意味である。
- 〈家先〉の儀礼名を記した祖先簿=〈家先単(チャーフィンターン)〉

〈家先単〉

- 〈家先単〉は、上に示した〈祖図〉と同じ構造で、埋葬地の記述が無く、〈家先〉の儀礼名のみ記載されているものである。
- 〈家先単〉には九世代以上の祖先が記載されているが、〈祖図〉と同じく世代更新時に書き換え—最上世代削除の原則がある。
- 〈家先〉を祀るときには、この〈家先単〉を読み上げ、〈家先〉を儀礼の場に招来する。中国農曆の新年(〈過年〉(キアニャン))や七月十四日(〈過十四〉(キアツィアツプフェイ))には、各家で祖先祭祀が行われる。
- 婚礼の時にも、新郎新婦の〈家先〉が呼び出され、何回も供養儀礼が行われる。
- 簡単な祖先祭祀儀礼は、決まった期日でなくとも、気がかりなことがあったりした場合にしばしば行われる。

〈家先〉チャーフィン家(チャー, ピャオ)の祖先



原則として9世代記載する。

図1 〈家先単〉の構成概念図

趙法光	外祖	鄧法亮	鄧法興	鄧法明	鄧志七郎	鄧官一郎	鄧富一郎	鄧財五郎	鄧銀二郎	鄧連二郎	太龍一郎	太貴二郎
趙氏者		鄧氏者	鄧氏者	鄧氏者	鄧氏三娘	鄧氏五娘	趙氏一娘	鄧氏二娘	趙氏四娘	趙氏二娘	李氏三娘	黃氏一娘

図2 〈家先単〉の一例(実例をもとに筆者が仮作したもの)

成人儀礼〈掛燈〉(クワーターン)

- 〈掛燈〉(クワーターン) : ミエンの男子の成人儀礼(イニシエーション)。
- すべての受礼者が祭司に叙任される形式で行われる。ミエン男子は全て祭司となる。もともと、これはあくまで形式の上での話であり、実際の祭司になるのは、更に儀礼知識を習得した者だけである。
- 〈掛燈〉= 儀礼的位階を決める一連の〈修道〉儀礼(〈掛燈〉⇒〈度戒〉(トウサイ)⇒〈加職〉(チャーツェツ)⇒〈加太〉(チャータイ)(表1のB-2)の第一段階として位置づけられている。
- 男子はこの儀礼によって〈家先〉との関係が確立し、女子は結婚して夫の〈家先〉との関係を確立する。

A-2の間違い

- 〈掛燈〉= 儀礼的位階を決める一連の〈修道〉儀礼(表1のB-2)の第一段階
- 〈加太〉(チャータイ) 守護霊が増える。「太～」という儀礼名を得る。
↑
- 〈加職〉(チャーツェツ) 守護霊が増える。「～郎」「～娘」という儀礼名を得る。
↑
- 〈度戒〉(トウサイ) 守護霊が増える。
↑
- 〈掛燈〉 守護霊が増える。「法～」という儀礼名を得る。

収魂儀礼

- 生者の魂を呼び戻す儀礼
- ミエンの霊魂観では、人間には身体の各部分を司る十の魂(十二だという人もいる)があり、それぞれが離脱可能である。
- 魂が身体を離れてしまうと、その魂が司っていた身体部分に不調が生じる。
- 儀礼を行って離脱した魂を身体に戻す。
- 魂を呼び戻す儀礼は多種ある。よく行われるのが、橋のレプリカを作り、その橋を渡って魂が戻るようにする〈架橋〉(チャーチヨウ)儀礼である。
- 儀礼が終わっても橋のレプリカはそのまま放っておくので、ミエン村落の周辺には、儀礼で使われた橋のレプリカをいくつも見ることができる。

祭壇

- ミエンの儀礼は、それぞれの家族が主催し、個人宅(ピャオ)を儀礼の場とすることが基本である。移住生活が長かったため、神社や廟などの儀礼施設を特に作ることは無かった。
- ピャオには祖先を祀る祭壇が設置されている。最近では常設の祭壇を持たない家もあるが、その場合は、儀礼を行うときに必ず卓などを用意して祭壇とする。

祭壇の種類

- 〈靈牌〉(ミエンパーイ)mien paai(〈下壇〉(ハーターン)ともいう): 壁に一本柱を立て、その上に板を水平に設置したであり、多くの家で見られる。
- 〈金壇(チエムターン)〉cem taan : 〈大堂画〉を持つ家の祭壇。四本柱の上に箱状の龕をおいた祭壇を設置する。祭壇の形を見れば、その家が〈大堂画〉を所持しているか否かが分かる
- 〈靈牌〉では通常の祖先=〈家先〉しか祀らないが、〈金壇〉では〈家先〉の他に〈祖宗〉という精霊も祀る。これらの祭壇には、香炉と、5つの酒盞、1つの水碗が置かれており、その他、儀礼用の小刀や紙銭など、儀礼に使う小道具が置かれていたり吊されていたりする。祖先に対する儀礼をはじめ、家内で行う儀礼はこの祭壇の前で行われる

複雑な言語使用

- ミエン文語 ツウンニエイワーあるいはツウンワー: 歌で用いられる言語
- ミエン口語 ミエンワー: 日常会話で用いられるミエン語。C列の儀礼の読誦
- 儀礼語 ツィアワー: 特定の儀礼で用いられる儀礼用言語。A・B列の儀礼の読誦。ミエンによると、ツィアワーはケックワー (広東語)であるという。
- 漢語雲南方言 ケツワー: 漢人商人との会話。C列の儀礼の読誦。

ミエンのこれから

- 彼等の従来 of 生活は、焼畑耕作に伴う移住がその基調を成していた。彼等の移住の方が先にあり、国境は後からできたものであるが、こうした移住故に国境を跨ぐ広い分布を呈するに到った。家の独立性の強さなどは、移住生活が大きく作用している。
- 道教色の強い儀礼体系を維持していることはその文化の特徴の一つである。
- ミエンは、焼畑に伴う拡散的移動により、各地の異なった社会文化環境に適応する過程で、その文化を変化させ、物質文化の側面においては、多様性の幅が大きい。

- 一方で、漢字で書かれた儀礼文書は、各地でも同様のものが保たれており、儀礼も比較的相同である。
- ミエンの儀礼知識は複雑にして甚だ膨大なものである。しかし、ミエンの祭司は専門家ではなく、普通の農民が務める。教義を司る総本山のようなものはない。
- 祭司のネットワークだけで、移住を行いながら膨大で複雑な儀礼知識を伝承してきた。

- しかし、その移住生活も、各国で終焉しつつある。ミエンが住む中国、ベトナム、ラオス、タイでは、いずれも焼畑耕作が規制され、定住化政策も施行されている。
- 膨大な儀礼知識の伝承も危うい。経済的変化と社会文化的変化により、人口が流動化して後継者がいなくなりつつあるからである。
- ミエン社会は、これまでにない大きな変化の渦中にある。その変化に対するミエンの文化と社会の再編成過程が今後の研究の課題となろう。

中国ヤオ族(瑶族)の言語

モン・ミエン(Hmong-Mien)語族ミエン語派

自 称 ①	音 译	人 口 ②	分 布 地 区			
			省(区)	县	份	
mjen↓(或ju↓mjen↓) ミエン	勉(或优勉)	163,885	广西	金秀 龙胜 临桂	湖南	灌阳 永福 阳朔
				资源 鹿寨 恭城		江华 蓝山 酃县
				蒙山 荔浦 平乐		郴县 宁远 道县
				昭平 贺县 富川		桂阳 东安 临武
				苍梧 罗城 融安		零陵 祁阳 资兴
				忻城 环江 来宾		常宁 江永 辰谿
				都安 宜山 百色		城步 新宁
				那坡 凌云 上林		
				田林		
				江华 蓝山 酃县		
tom↓pen↓ju↓(或 mjen↓)	董本优 (或勉)	13,992	云南	麻栗坡 马关 广南 富宁		
			广西	西林 那坡 防城		
			湖南	新田 宜章		
			广东	连南 乳源 连山 连县 仁化 翁源 阳山 英德 乐昌 始兴 曲江		
thou↓ju↓(或mjen↓)	土 优 (或勉)	2,425	广西	贺县		
			湖南	新田 宜章		
ku↓goŋ↓ju↓ (或 mjen↓)	谷岗优 (或勉)	8,212	湖南	蓝山 江华		
			广西	罗城		
dzut↓to:n↓'jau↓- mjen↓	祝敦优勉	160	广西	防城		
au↓bjau↓(或 mjen↓)	均 标 (或勉)	1,234	广西	金秀		
bjau↓mon↓(或 min↓ju↓)	标 曼 (或敏优)	8,609	广西	蒙山 荔浦 平乐 昭平		
ai↓mun↓	史 门	2,385	广西	恭城		
bjau↓min↓	标 敏	16,521	广西	全州 灌阳		
			湖南	零陵 道县		
tau↓'koŋ↓meŋ↓	交公勉	5,018	广西	恭城		

kim↓mun↓ キム・ムン	金 门	65,933	云南	麻栗坡 马关 西畴 邱北 广南 富宁 砚山 河口 屏边 元阳 师宗 江城 景东 墨江 勐腊
			广西	宁明 西林 百色 凌云 凤山 那坡 上思 田林 巴马 防城
kem↓di↓mun↓	甘迪门	1,748	广西	金秀 永福 鹿寨
dzau↓min↓	藻 敏	29,737	广东	连南 阳山
			湖南	宜章

モン・ミエン語族モン語派

pu↓nu↓(或 tug↓nu↓) プヌ	布 努 (或东努)	153,589	广西	都安 河池 南丹 天峨 巴马 百色 隆安 田东 田西 田东 上林 丹竹 宜山
			云南	富宁
nu↓nu↓	努 努	31,928	广西	凌云 巴马 田林 凤山 东兰
pu↓no↓	布 诺	11,211	广西	都安
nau↓k'lau↓ (或pou↓nou↓)	瑙格劳 (或包诺)	16,476	广西 贵州	河池 南丹 天峨 荔波
nu↓mhou↓	努 茂	1,147	贵州	荔波
pei↓toŋ↓nuo↓	杯冬诺	244	贵州	荔波
kiog↓nai↓	炯 奈	822	广西	金秀
pm↓nai↓	唔 奈	3,980	湖南	隆回 通道 溆浦 辰谿
pa↓ŋŋ↓ (或 pa↓ŋŋ↓m'ai↓)	巴 哼 (或巴哼迈)	10,375	贵州	黎平 从江 榕江
			广西	三江 龙胜 临桂 融安
ju↓nuo↓	优 诺	2,920	广西	龙胜

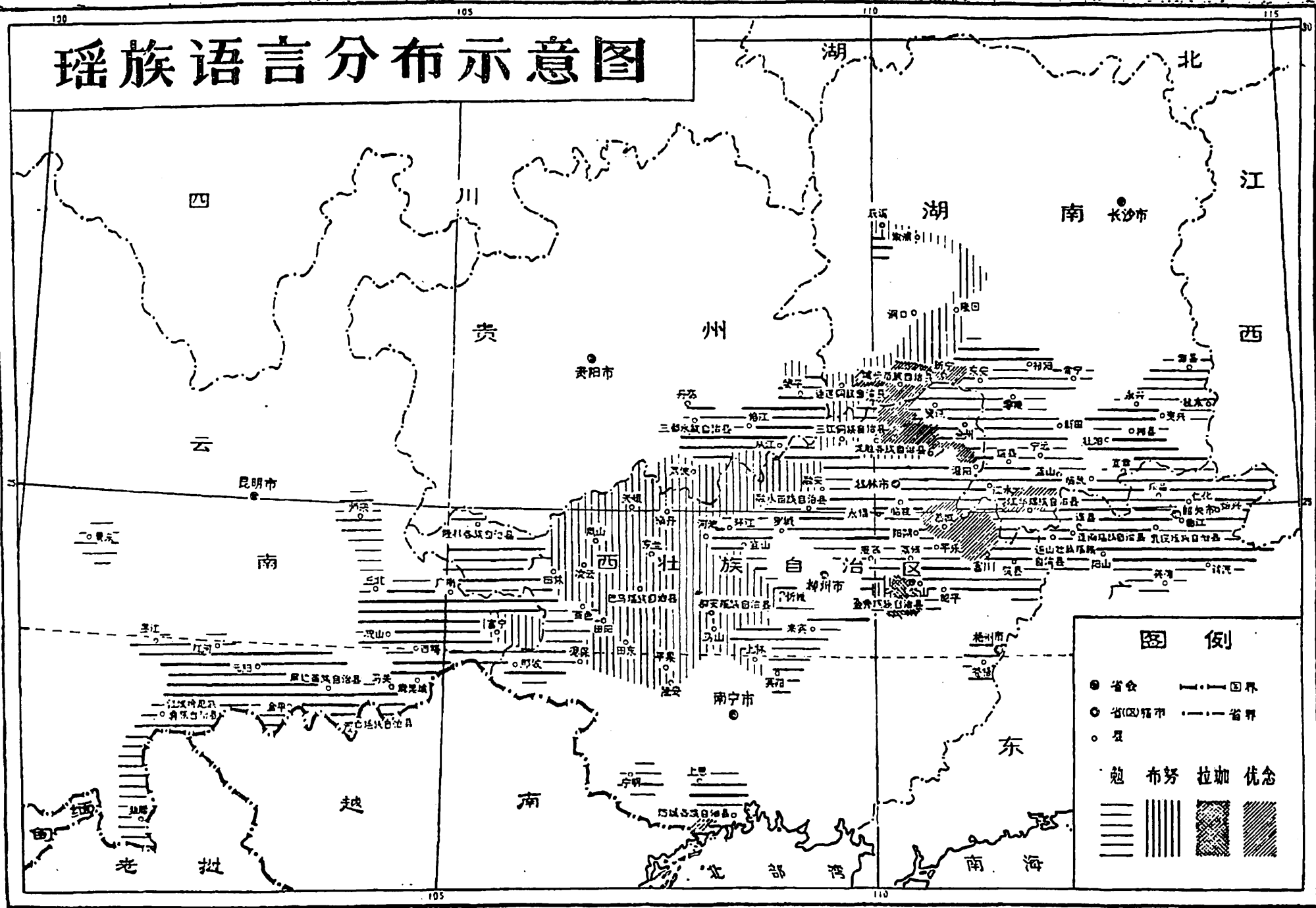
タイ・カダイ語族カム・タイ語派

lak↓kja↓	ラツキヤ	拉 珈	5,348	广西	金秀
----------	------	-----	-------	----	----

その他

pioŋ↓toa↓jeu↓(或 tai↓nai↓kjaŋ↓)	炳多优 (或代奈江)	90,091	广西	恭城 富川
			湖南	江华
ju↓ŋien↓	尤 念	17,789	广西	龙胜 灌阳
san↓t'ai↓	珊 介	150	广西	防城
ju↓ka↓	尤 嘉	2,013	广西	灌阳

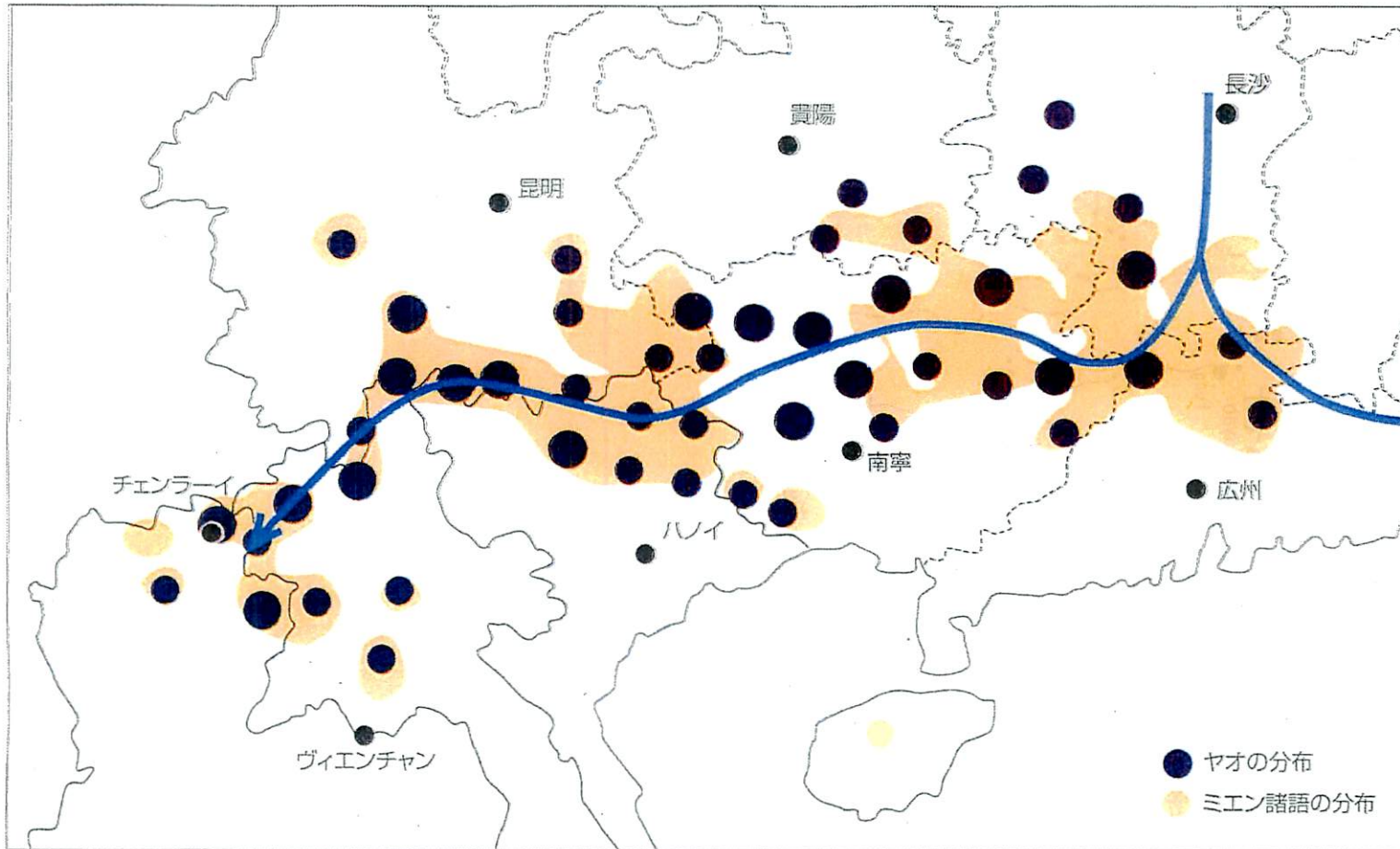
瑶族语言分布示意图



图例

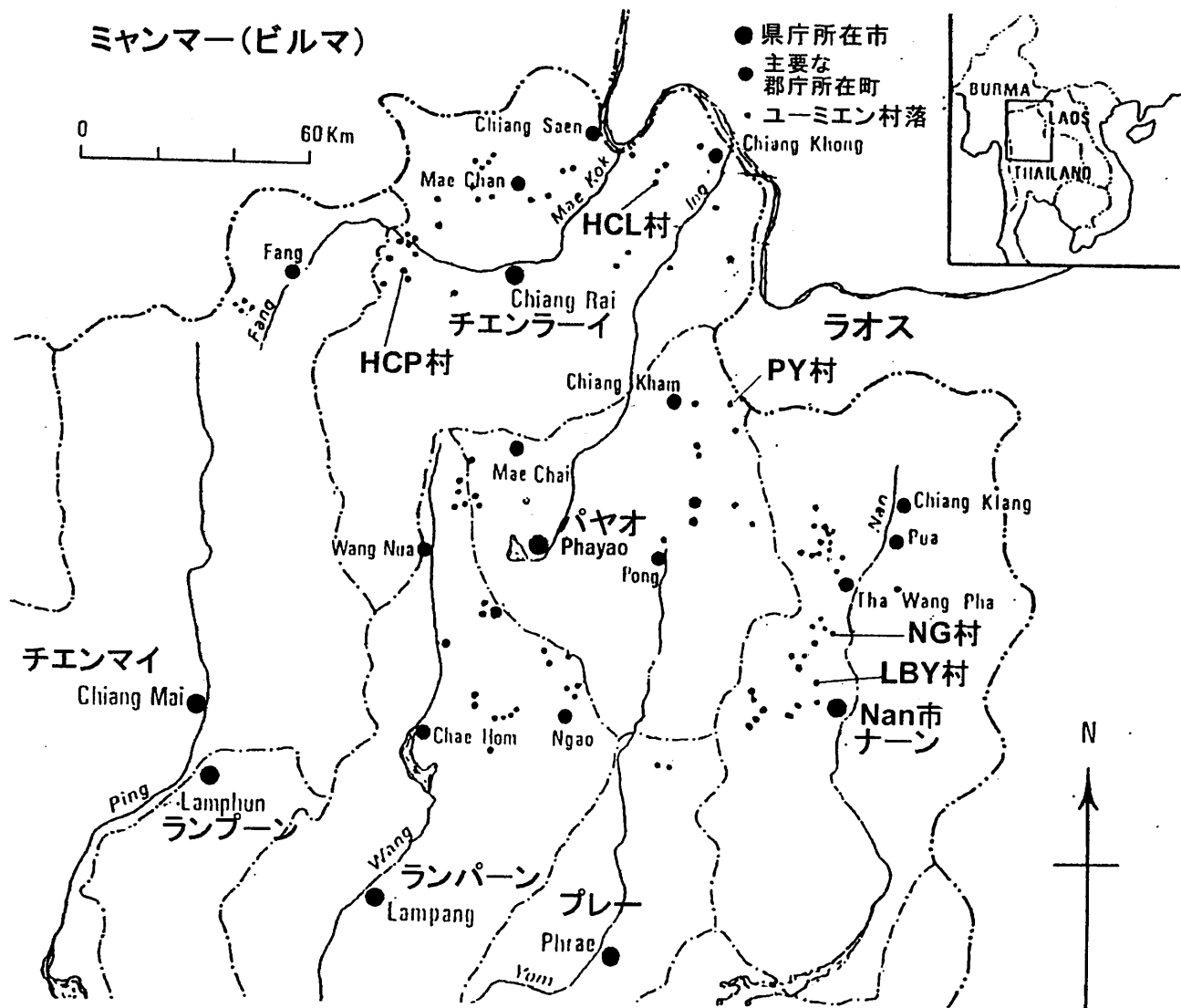
- 省会
- 省(区)辖市
- 县
- — — 国界
- — — 省界
- 勉 布努 拉珈 优念

ミエンの分布



→東へ移動した
集団がショオ族
になったと推定
される

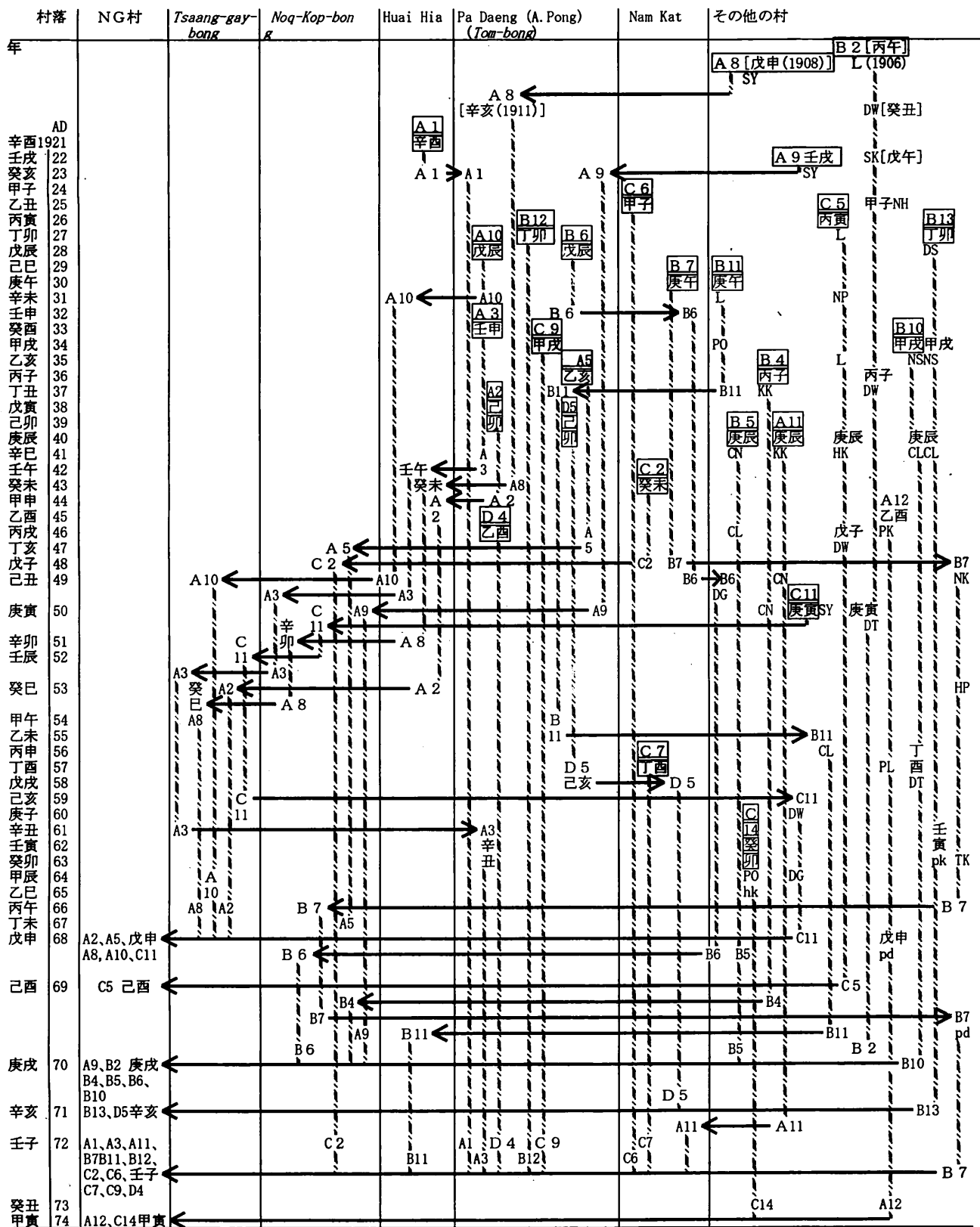
ミエン族の世界のひろがり



タイ北部拡大図

タイ王国ナーン県在住のあるミエンの（祖図）（李姓）

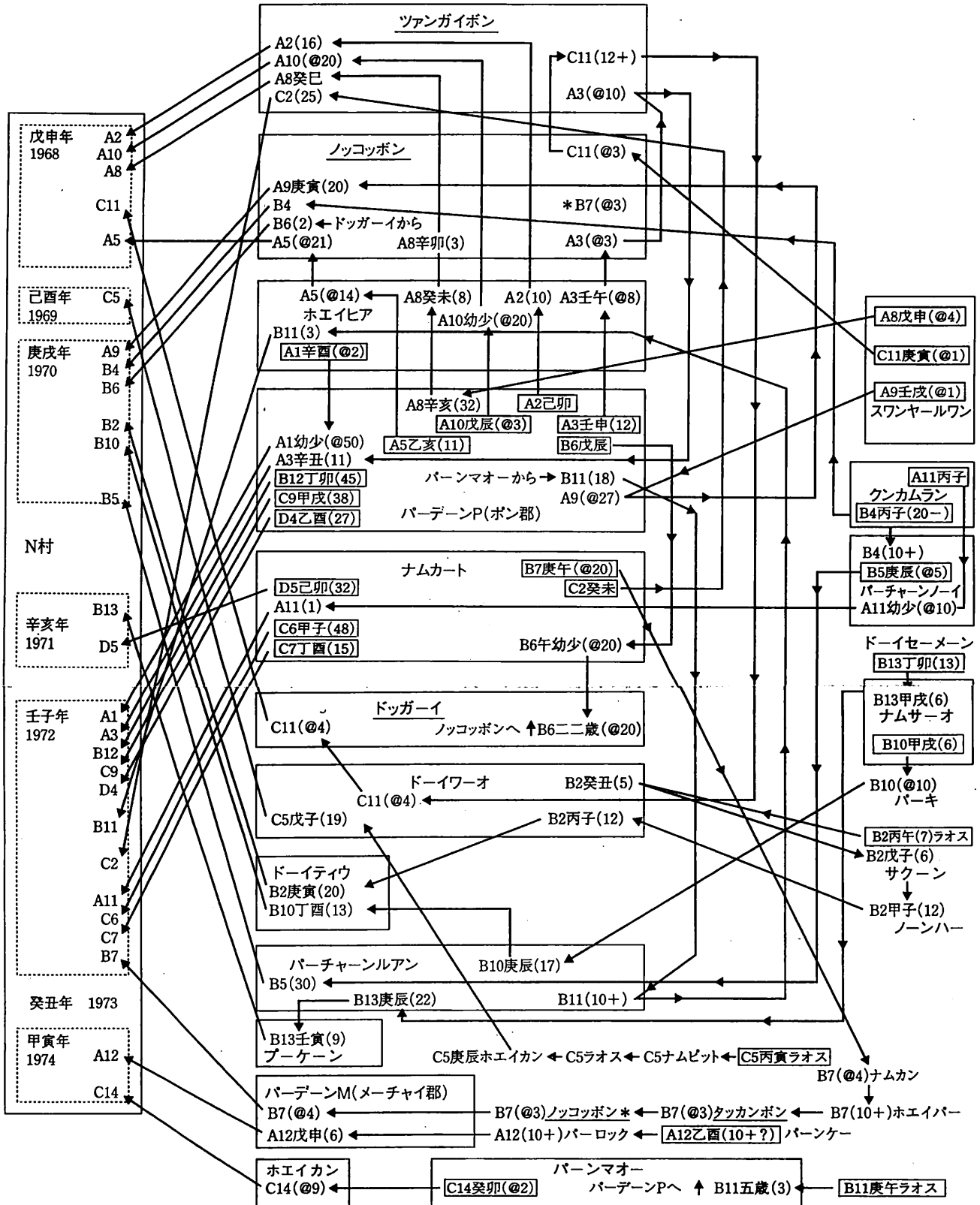
- ① 太■ 郎墳堂葬在雲南道開花府文山県羅竜里……
C氏■ 娘墳堂葬在廣西道尙練冲……
- ② 太■ 郎墳堂葬在廣西道沔・冲……
- ③ 李■ 郎葬在廣西道躡枝冲……
同妻L氏● 娘供・供地主
- ④ 李■ 郎葬在廣西道羅城縣……
P氏● 娘葬在廣西道四城府管下晏瀨冲……
- ⑤ 李■ 郎葬在開花府管入云平里老東寨……
T氏● 娘葬在開花府雲平里九牛……
- ⑥ 李■ 郎葬在開花府管下果羅冲了口寨……
P氏● 娘葬在開花府管下仰山嶺頭坪……
- ⑦ 李■ 郎葬在猛隴府管入猛宣州管入猛標洞
管入淦金平河冲……
P氏● 娘葬在猛隴府管入猛暹州管入猛標洞
管入淦金岔河……
- ⑧ 李法■ 葬在猛隴府管入滄自冲嶺頭……
T氏者…… 安葬猛竜府管入淦邪朽恐洞……
嫩位T氏者葬在猛竜府管入猛誇洞管入滄吊
撩冲……
- ⑨ 李法■ …… 安葬猛隴府管入猛哈洞……
⑩ 李法■ …… 安葬在猛南府管入猛蜂洞管入淦
割冲……
同妻T氏者…… 安葬座猛隴管入城彪洞管入
會庚・冲會毡二条岔河中……
- ⑪ 李法■ 安葬猛南府管入猛利洞淦・河頭……
同妻T氏者安葬猛南府管入猛領洞淦・冲……



「その他の村」の村落名略号：
 CL=Pha Chang Luang, CN=Pha Chang Noi, DG=Do Gaai, DS=Doi Sae Meng, DT=Doi Tiu, DW=Doi Wao, HK=Huai Khong, hk=Huai Kang,
 HP=Huai Pa, KKK=Khun Kamlang, L=LAOS, NH=Nong Ha, NK=Nam Khang, NP=Nam Phit, NS=Nam Sao, pd=Pha Daeng (A. Maecai), PK=Pang Kae,
 pk=Phu Kheng, PL=Phu Lak, PO=Pang Ma-O, SK=Sakoen (Huai Fueang), SY=Suan Ya Luang, TK=Takangbong
 縦線 (|) はその村落に居住した期間を表し、横線 (—) は村落間の移住を表す。十字形の交差は線を直進し辿る。縦線が横線につき当た
 る形の合流 (逆T字形) は同じ年にその横線に連なる人が移住したことを示すが、必ずしも共同で移住したことを表すわけではない。移住の年
 は言明のあったものは明記した。移住年の明記のないものはおおよそその頃に表記の村落へ移住したことを示す。姓は省略した。□で囲った
 起点は生年である。「その他の村」については、移住の年あるいは時期に移住先の村落略号を記した。

NG村への移住

図1 N村居住者の移住歴



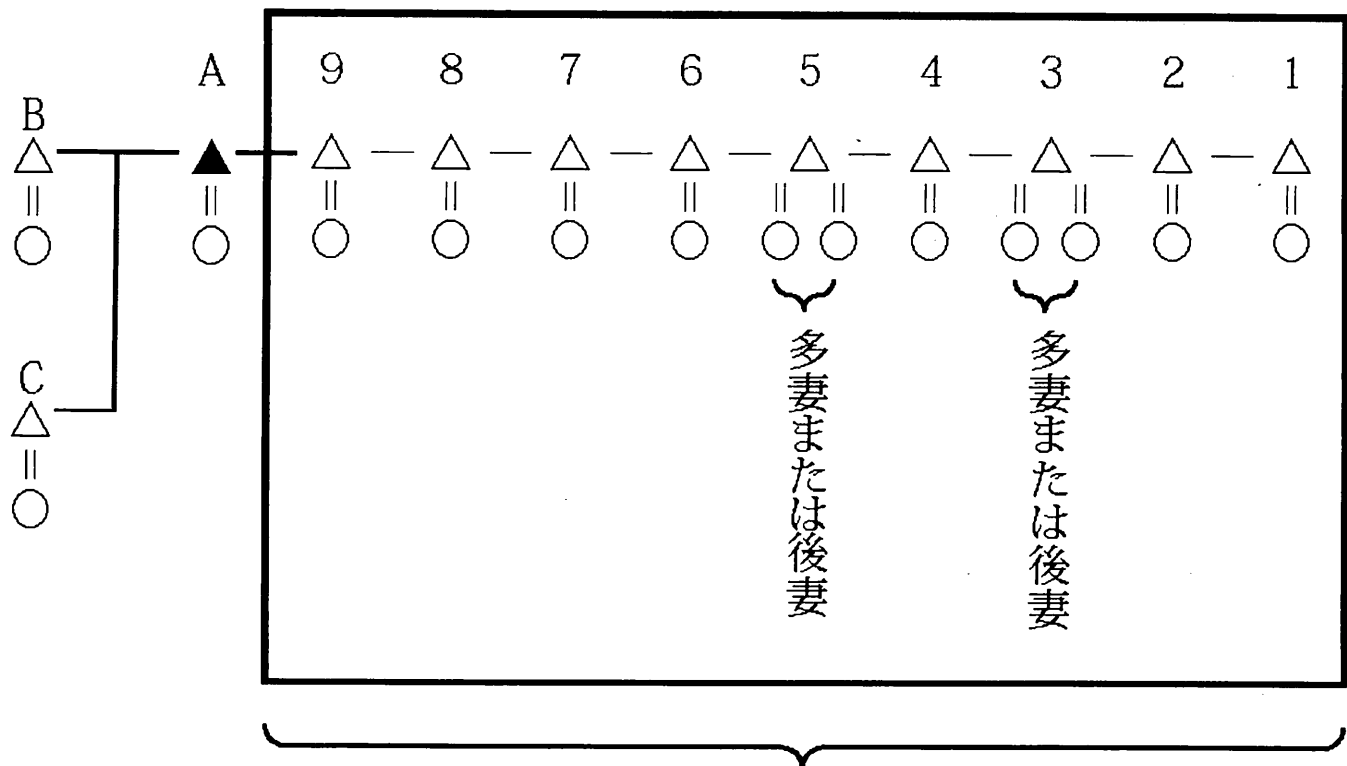
凡例 世帯番号(集落記号+番号)で、その世帯の世帯主あるいは世帯主に準ずる者を表す。移住の年が分かっているものは、その年の干支で表した。ミエン族は干支で年を数えるからである。世帯番号の後の干支あるいは「幼少」(幼少時)、「二歳」等の表記は、その村へ移住した時を表す。()内の数字は、その村に居住した年数を表し、@はおおよその年数であることを示す。同様に、+は「~年以上」、-は「~年未満」を示す。*を付した「B7(@3)ノッコッボン*」およびノッコッボンにおける「*B7(@3)」は、作図の都合上、矢線による移住経路の表示を省略したものである。

地名はタイ語あるいはミエン語の地名を日本語の近い発音に直した。下線を引いた地名はミエン語の地名である。パーデーという地名は、当時のチアンラーイ県ボン郡と同県メーチャイ郡(現在はいずれもバヤオ県)との2カ所があるので、図中ではそれぞれPとMを付けて区別する。この図は吉野「タイ北部、ミエン族の移住」掲載の図に基づいているが、その後の調査によって判明した誤りを訂正した。

表1 タイにおけるユーミエンの儀礼

	A〈大堂画〉tom toŋ faaŋを掛け、高位の神霊を招請する。	B〈中空〈半天高樓〉に住む〈玉帝〉nut taiへ向けた祈願を行う(〈當天〉toŋ tinまたは〈叫天〉heu lung)。	C AとBのいずれもなし。
1 〈盤皇〉祭祀			〈歌堂〉
2〈修道〉	〈掛燈〉〈度戒〉〈加職〉 〈加太〉		
3 祖先祭祀	〈超度〉	〈當天安墳〉* 〈析解〉[〈掛燈〉 〈超度〉〈做身〉の儀礼分節として行われることが多い] 〈安翁太牌〉	〈尚翁太〉〈尚家先〉〈尚外祖鬼〉 〈尚外家鬼〉〈収兵〉*〈平安墳〉
4 人生儀礼	〈做身〉[葬儀]		〈添人口〉〈斥人口〉〈出花林〉 〈做親家〉[婚礼]
5 収魂[生者の魂を呼び戻す]		〈當天架橋〉	〈架平橋〉[多種] 〈叫魂〉〈贖魂〉 〈贖花〉〈搶魂〉*
6 穀霊祭祀		〈入春〉	〈招稻魂〉〈贖稻魂〉
7 土地霊祭祀			〈設地方鬼〉〈設地鬼〉〈給秋〉 〈開山〉
8 厄祓い			〈解煞〉
9 願掛け・返礼			〈許願〉[多種] 〈還願〉[多種] 〈賀年〉*
10 謝罪			〈釋師父〉〈釋天地〉〈釋契父〉
11 その他			〈設太陽月亮〉〈設元肖鬼〉〈奏星〉 〈設百家姓〉

*〈発童〉というシャマン儀礼を伴う。



原則として9世代記載する。

図1 <家先単>の構成概念図

趙法光	外祖	鄧法亮	鄧法興	鄧法明	鄧聰七郎	鄧官一郎	鄧富一郎	鄧財五郎	鄧銀二郎	鄧連一郎	太龍一郎	太貴二郎		
趙氏者		鄧氏者	鄧氏者	盤羅氏者	鄧氏三娘	鄧氏一娘	馮氏五娘	盤氏二娘	趙氏一娘	鄧氏二娘	趙氏四娘	趙氏二娘	李氏三娘	黃氏一娘

図2 <家先単>の一例(実例をもとに筆者が仮作したもの)

アジアに生きる少数民族の文化を知る

内容

ヤオ族は、中国南部から焼畑耕作による移動を長期間重ね、広く東南アジア大陸部(ラオス・ベトナム・タイ・ミャンマー)へ、さらに難民としてアメリカにも移住しています。ヤオ族は、中国文化の圏域外へと跨境(こきょう)してなお漢文化から受容し自ら体系化した漢字文書を保持し続けています。

この漢字文書は種々な儀礼で使用され、ヤオ族の重要な文化資源といえます。移住という行為は神話・儀礼文書・個人的経験のいずれのレベルにも共通する“先祖伝来の営為”であると認識されており、ヤオの個人的民族的アイデンティティーは移住を常態とみなし、移動し続けることを中核とすることで形成されています。このことがヤオ族の順応性・柔軟性に加え独自性を失わない価値観に表われているといえます。

ヤオ族の言語・家族・生業・祭り・年中行事・人生儀礼・衣装・音楽・踊り・絵画を通して、その生きざまと民俗知識を知ることであれわれ日本人も種々な示唆を得ることになると考え、本講座を企画しました。

2008年に発足した神奈川大学プロジェクト研究所ヤオ族文化研究所の研究結果の公開を図るものです。

開講決定

日 時	1/24~2/28 土曜日 10:30~12:00 全6回
受講料	9,500円 (8,500円)
定 員	50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。
申込締切	1/23 (金)

講座日程

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	1/24 (土)	吉野 晃 東京学芸大学教授、ヤオ族文化研究所所員	ヤオ族概説 ヤオ族の分布と来歴について概説し、タイのヤオ族を例に生活の全体像を紹介し
2	1/31 (土)	吉野 晃 東京学芸大学教授、ヤオ族文化研究所所員 増野 高司 総合研究大学院大学客員研究員 ヤオ族文化研究所所員	生業 ヤオ族の移住をもたらしてきた焼畑耕作と、常畑耕作や出稼ぎなど近年の生業の多様化について紹介します。
3	2/7 (土)	吉川 雅之 東京大学准教授、ヤオ族文化研究所所員 廣田 律子 神奈川大学教授、ヤオ族文化研究所所長	言語と神話 ヤオ族の言語の一種であるミン語の特徴を紹介し、ヤオ族のアイデンティティーの中核をなす救世主盤王の神話に展開します。
4	2/14 (土)	内海 涼子 大阪成蹊大学教授、ヤオ族文化研究所所員	衣文化 ベトナム北部や中国の雲南・広西を中心にヤオのさまざまな装いと染織技法などを紹介し比較します。
5	2/21 (土)	泉水 英計 神奈川大学教授、ヤオ族文化研究所所員	家族と社会 ヤオ族の家族と屋敷、一見したところでは日本と似ているようで、実は意外なほど違うすまいの在り方から、ヤオ族の社会にアプローチします。
6	2/28 (土)	丸山 宏 筑波大学教授、ヤオ族文化研究所所員 浅野 春二 國學院大学教授、ヤオ族文化研究所所員	儀礼と儀礼文献 中国南部のヤオ族の儀礼の実践と使用される経典について解説します。

■会場のご案内■

KUポートスクエア

〒220-6014

横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA14階

【交通】みなとみらい線みなとみらい駅下車 徒歩約2分

J R根岸線・市営地下鉄桜木町駅下車 徒歩約7分

神奈川大学みなとみらい
エクステンションセンター

【留意事項】

- ※受講料には、資料代及び消費税が含まれます。
- ※()内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学生在に適用される料金です。
- ※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴(一部講座除く)がある方は、受講料を5%割引きます。
- ※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

FAXまたは郵送で
お申し込みの方は

この用紙裏の「受講申し込み書」に
ご記入の上FAXまたは郵送してください

ホームページから
お申し込みの方は

<http://www.ku-portsquare.jp>

資料請求・お問い合わせ先

KU 神奈川大学

■生涯学習・エクステンション講座係

KUポートスクエア TEL:045-682-5553 FAX:045-682-5554

広報事業課 TEL:045-481-5661(大学代表)

受講申し込み書

(FAXまたは郵送用フォーム)

〒220-6014 横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA 14階
 KUポートスクエア 生涯学習・エクステンション講座係
 FAX番号: **045-682-5554**

20 年 月 日

※印の項目は必ずご記入ください。

フリガナ※				性別	男・女
お名前※	姓	名			
生年月日※	19 年	月	日 (歳)	受講生番号	※記入された方は、ご住所・電話番号・携帯電話・E-mailは省略可。
ご住所※	〒				
電話番号※	()	携帯電話		()	
E-mail	@				
ご職業※	1. 学生 2. 会社員・団体職員(一般職) 3. 会社員・団体職員(管理職) 4. 公務員 5. 教職員 6. 自営業 7. 主婦 8. 定年退職・無職 9. その他 ()				
受講者区分※	1. 神奈川大学学生 2. 神奈川大学・大学院・短期大学部卒業生 3. 神奈川大学在学学生父母 4. 附属中・高等学校生徒 5. 附属中・高等学校卒業生 6. 附属中・高等学校生徒父母 7. その他本学関係者 (□科目等履修生 □聴講生 □研究生 □研究員 □教職員) 8. 横浜市内大学間学術・教育交流協議会加盟大学在学学生 9. かながわ大学生涯学習推進協議会加盟大学在学学生 10. 上記以外の方(一般)				
割引制度利用※	無・有 (制度名:)				

※継続割引対象の方は自動登録されますので、この欄に記載する必要はありません。

※割引制度の対象となる方: タカシマヤ友の会会員/横浜ランドマークタワー・クイーンズタワーA 就業者(セキュリティカード所持者)/ロイヤルパークホテル社員証所持者/日揮(株)従業員証所持者/NHK文化センター会員カード所持者/MMパークビルセキュリティカード所持者/アクセンチュア就業者カード所持者/YOKOHAMA COMMUNITY CLUBカード所持者/千代田化工建設従業員証所持者

■受講者区分が1~9の方は、必ずご記入ください。

受講者区分	フリガナ 本人又はご子息様のお名前	本人又はご子息様の学籍番号	卒業年月	学部・学科(大学関係者に限る)
1・4				学部 学科
2・5			年 3・9月	学部 学科
3・6				学部 学科
7		(学籍番号又はコード番号)		(所属学部・所属部署)
8・9	在籍中の大学名	大学	学年 年	学部 学科

認知媒体※ (一つのみ)	1.パンフレット 2.本学ホームページ 3.新聞広告 4.ミニコミ紙 5.折込チラシ 6.電車内広告 7.バス車内広告 8.駅看板・ポスター 9.知人の紹介 10.その他()
-----------------	--

■申し込み講座

開講場所※	講座名称※	開講期間※	開講曜日※
KUポートスクエア	アジアに生きる少数民族の文化を知る	1/24 ~ 2/28	土 曜日
			曜日

※受講申し込みの際に登録された受講者の個人情報については、注意をもって管理し、講座の円滑な運営のために利用します。

※登録された個人情報に基づき、神奈川大学から講座開催等についてご案内することがあります。但し、案内を希望しない場合は、お申し出ください。

■事務使用欄

1.受付	2.データ登録	3.コード	4.受講者区分	KU-YAO
------	---------	-------	---------	--------